

## 色とりどりの美術室

校長 武井 正明

私は子どもの頃から絵を描くのが好きだった。正確に言うと絵ではなく似顔絵やマンガだね。授業の水彩画は、全然…。

野球マンガ「侍ジャイアンツ」ってのがあった。あれをよく描いた。主人公・番場蛮が繰り出す魔球に痺れた。実在の王、長嶋、堀内も登場する。最期は確か分身魔球の投げすぎで番場蛮は死んでしまう。あのバンババーン、なぜか俺の心をつかんだ。

藤子不二雄のドラえもん、パーマン、オバQは勿論よく描いた。赤塚不二夫の「天才バカボン」の独特の世界が私を惹きつけた。これもよく読んだ。

真似は上手いけど、独創性がない。これが絵に限らず総ての面での自分の決定的な弱点。私は典型的な日本人なのかもしれない。

絵を描くのが好きなのは母親の影響だ。母はよく「アタックNo.1」の絵を、ササッと描いていた。おかあさん、なかなか上手いなあ…。因みに親父の絵は見たことがない。

今日は、放課後の美術室を覗いてみた。これが家庭科部に負けず劣らず、静かでアットホームな雰囲気の中、皆それぞれに自分の世界で、作品作りに励んでいる。

どれどれ…「吉中革命」今年の真和会スローガンだ。いろんな種類がある。見ていて楽



ですが、思いっきり汗をかける、ギラギラの夏を表現した一枚、なんて登場しないかな。

あなたの力作をお待ちしています!!

しくなる。大人には描けない独自性豊かな構図が目立つ。まだ制作中の人もある。

顧問の鈴木先生によると、例年美術部の候補作品から生徒玄関の掲示作品を部員内で決めていたが、今年は全校生徒にフォーム投票で選んでもらうことに決定したのだという。

私は色塗りが苦手だった。だいたい色塗りで失敗する。でも美術部の人たちは、実にきれいに色を付けていく。

今、校長室脇と生徒玄関には、美術部の人たちの作品が飾られている。私は密かに新作を期待している。

季節は春から夏へ。

なかなか気温が上がらない春

